# 2013年度の漢字中級前期クラスの授業報告

## ―漢字語彙の自律学習を促すためのクラス運営―

鄭　聖美　　中尾　菜穂

### 要　旨

本稿は、筆者らが担当した2013年度の「漢字中級前期クラス（K500）」についての報告である。K500は、初級から中級への移行段階にあたり、従来から学習者にとっては課題の多いレベルである。それに加え、2013年度は２学期制への移行に伴い、漢字中級クラスについては受講者の日本語レベルがやや低下することが予想された。よって、クラスの目標を①初級から中級への移行、②漢字中級語彙の自律学習、③自律学習のために自分の弱点を知り、克服の方法を工夫する、に設定し、それに従ってクラス活動を実施した。特に、「学習漢字シート」と「振り返り」、「読み練習」を新しく取り入れた。その結果、春学期には問題点もあってアンケート結果は良くなかったが、秋学期のアンケート結果からは一定の成果がみられた。

【キーワード】中級前期学習者　漢字中級語彙　IKB　自律学習

# A Report on the 2013 Lower-Intermediate Kanji Class : encouraging learner-centered study for Kanji vocabulary

JUNG Sungmi, NAKAO Naho

【Abstract】This is a report on lower-intermediate Kanji Class (K500) in 2013. As a transition class from the beginning to the intermediate, K500 has been challenged by many problems for the learners. In addition, with the shift to the semester system in 2013, it was expected that many students with lower Japanese ability may take K500. Therefore, the goals of this course were set as follows : 1) to transition successfully from the beginning to the intermediate, 2) to gain learner-centered study skills for intermediate Kanji vocabulary, 3) to become conscious of self-weaknesses in Kanji-learning and to devise ways for overcoming them. According to these goals, several class activities were newly adopted. The questionnaire results of the spring semester showed that some problems still remained, but a certain level of improvement was observed from the results from the fall semester.

【Keywords】lower-intermediate learner, Kanji vocabulary, IKB, learner-centered study

## 1．はじめに

### 1．1　漢字中級クラスの課題

日本語学習における初級から中級への移行の難しさの要因の一つに、学習語彙の増加があげられる。初級では、表現や理解に欠くことのできない1,000～1,500程度の基礎語を集中して学ぶが、これはどの学習者にも共通のものといえる。しかし、中級では、初級の基礎語を核として、それぞれの学習者の生活や学習の目的に見合った分野の語彙を学んでいく必要があり、この中級移行過程における語彙教育については、初級と違った目標と能力が要求される（森田 1986）。

初級語彙は話し言葉中心であり和語の比率が高いが、中級は書き言葉への移行とともに漢語が増加するため、漢語の語構成を知り、自力で理解できる力を養成することが求められてくる。つまり、中級の語彙学習は漢字学習とも密接な関わりをもつ。漢字学習の側からみれば、初級段階ではまず一字一字の書き方に慣れ、それぞれの読み方や意味を覚える一字完結の学習ですんでいたものが、中級段階ではひとつの漢字の中に含まれる意味や音の部分からその漢字の音や意味を推測するだけではなく、ほかの漢字との組み合わせで表す意味をも推測するような学習へと移行しなければならない。旧日本語能力試験の３級と２級とのあいだの語彙の出題範囲に大きな差があるのも、このような「中級の壁」によるものであろう。

この「中級の壁」の存在は、筑波大学留学生センターの授業評価アンケートの結果にもみられる。2012年度の授業評価アンケートでは、漢字クラス全体では授業内容についての理解度は比較的高いものの、漢字中級学習に入る旧K600（2013年度のK500にあたる。表１を参照）では若干の理解不足の回答がみられている。また、教科書・教材についての評価でも、初級から徐々に上がってきた評価が、中級教材に入る旧K600で若干下がり、その後慣れてくるにしたがって再び肯定的評価が増加する傾向がみられる。加納（2013）は、これについて、「中級語彙の増加をめざしてそれまでの漢字学習とは違う学習方法が求められる段階における学習者の戸惑いである」と分析し、このような時期をうまく乗り越えられるための方策が求められると述べている。

### 1．2　２学期制移行に伴う新たな課題

筑波大学は2013年度から、従来の３学期制から２学期制へと移行した。これに伴い、留学生センターの日本語科目においても、さまざまな改編が実施された。主な変更点は、１学期あたり10週から15週のプログラムに改編されたことと、海外の協定校から来日する短期留学生のための総合日本語科目（単位有）が設けられ、本学の正規生や研究生を対象とする補講としての日本語科目（単位なし）と別になったこととの二つである。

２学期制導入にあたって、日本語科目のレベル編成も変更された。補講日本語クラスは

全９レベル（J100～J900）から全８レベル（J100～J800）へ、補講漢字クラスは従来通りの全８レベルであるが、K200～K900という設定から、K100～K800へと変更された（表１）。

表１　補講漢字クラスのレベル編成

| 2012年度までの漢字クラス（旧） | 授業内容 | 2013年度からの漢字クラス（新） |
|---|---|---|
| K200（入門） | BKB.Vol.1　L1-L10 | K100（入門） |
| K300（初級前期） | BKB.Vol.1　L11-L22 | K200（初級前期） |
| K400（初級中期） | BKB.Vol.2　L23-L35 | K300（初級中期） |
| K500（初級後期） | BKB.Vol.2　L36-L45 | K400（初級後期） |
| K600（中級前期） | IKB.Vol.1　L1-L5 | K500（中級前期） |
| K700（中級中期） | IKB.Vol.1　L6-L10 | K600（中級後期） |
| K800（中級後期） | IKB.Vol.2　L1-L3 | K700（上級前期） |
| K900（上級） | IKB.Vol.2　L4以降 | K800（上級後期） |

2012年度までの補講漢字クラスにはK100がなかった。補講日本語の入門レベルであるJ100では、ひらがな、カタカナの学習が中心となるため、漢字を学習する余裕はないと考えられたからである。しかし、2013年度から短期留学生用に入門レベルが漢字100として設定されたのに揃えて、補講でもK100が設定され、2012年度の旧K200にあたるクラスが2013年度はK100となるように、テキストの該当課を扱う漢字クラスの名称が１レベルずつ下がることになった。

日本語レベルと漢字レベルは必ずしも一致しないため、漢字クラスについては、日本語クラスとは別のプレイスメントテスト（漢字SPOTおよび漢字読み書きテストなど）を実施している。旧K600の受講者は中級語彙の学習がすでに始まっている旧J600の学習者が中心だったのに対し、新K500の受講者は中級語彙の学習をこれから開始しようとする新J500の学習者が中心となることが予想された。

また、2012年度までは、日本語学習に集中する時間が比較的確保しやすい短期留学生がクラスのペースメーカーとなり、授業活動をリードする傾向がみられたが、2013年度からはこの短期留学生が補講コースを離れて別コースとなることにより、クラス全体の傾向に何らかの影響が及ぶことも予想された。

以上のように、2013年度漢字中級前期クラスでは、従来の漢字中級学習の課題に加え、学習者の日本語レベルの低下という課題が予想された。従って、75分授業10回から15回へというコース時間の増加も考慮し、従来の方法の踏襲にとどまらず、学習者の満足度を上げるようなクラス運営や授業方法の工夫が求められた。

本稿では、２学期制移行後初年度にあたる2013年度のK500における筆者らの手探りの工

夫と、クラスの様子について報告する。

## 2．漢字中級前期クラスの学習方針

漢字中級前期クラスのテキスト及び、これまでの学習方針について述べる。

### 2．1　教科書（IKB Vol.1）の学習方針

表1にあるように、K500（旧K600）では『Intermediate Kanji Book vol.1』（以下IKB）をメインテキストとし、1課から5課までを使って学習する。加納（1994）によると、IKBの目標は以下の3つである。

①中級の漢字語彙のボキャブラリー・ビルディング

⇒　漢字を手がかりに中級レベルの読解で使用頻度の高い語彙を拡充し、正しい用法を学ぶ。

②初級を終えた学習者の困難点の克服

⇒　漢字の特徴を知ることにより漢字圏学習者には正確な読みの力と用法の知識をつけ、非漢字圏学習者には書きに対する苦手意識の克服と語学力の増強を図る。

③学習者の自律的漢字学習の支援

⇒　さまざまな記憶法、整理法、練習法の中から学習者が自分に最適なものを選び、自律学習の継続を可能にする。

このため、IKBは、各課のいわゆる新出漢字を一字一字説明する形式のテキストではない。各課のテーマに沿って、漢字や漢字語彙の正確な運用力を高めていくための知識の整理、用法のまとめなどが「要点」として提示されている。また、「基本練習」「応用練習」は、新出漢字・漢字語彙の練習だけではなく、さまざまな練習方法のバリエーションを示し、学習者が自分に合った練習方法を試す場とされている。目標の③にあるように、講義形式の授業のためのテキストではなく、自律学習を支援するためのテキストである。

### 2．2　教科書（IKB Vol.1）の構成

IKB Vol.1は、各課が「復習／基本練習／要点（学習漢字）／応用練習／課題」の各セクションに分かれている。加納他（1993）による冒頭の「使い方」（pp.vii-viii）をもとに、各セクションの内容を概略する。

(1)　復習：『基本漢字500』で勉強した漢字だけを使った、その課の学習項目となっている知識を活性化させる練習問題である。すぐ後ろのページに答えがある。

(2)　基本練習：その課で学習する漢字を使った、読み練習や選択練習が中心になっている練習問題である。巻末に答えがついている。

(3) 要点：その課の学習項目となっている知識をまとめたものである。新しい漢字・語彙を覚えるのに役に立つ知識や、覚えた漢字・語彙を整理して思い出しやすくするのに有効な知識がまとめられている。

(4) 学習漢字：その課の学習漢字は要点の最後にリストされてある。学習漢字の部首・筆順・画数・英語による意味・語彙などは巻末の「字形索引」に記載されている。要点には各学習漢字が「字形索引」のどのページにあるかのみが記されており、学習漢字の自習を促している。

(5) 応用練習：その課の要点と学習漢字を使った、書き練習や用法の練習が中心になっている練習問題である。いろいろな形式の問題を通し、応用力がついたかどうかが確認できる。巻末に答えがついている。

(6) 課題：学習漢字以外に、興味のある分野や専門分野の読み物から見つけた漢字について、自発的・発展的な学習を促す。解答はついていない。

### 2.3 漢字中級前期クラスの授業方針

杉浦（2010）は、旧K600の授業方針として、2012年度までの3学期制において、1学期あたり10週間、週に一度の75分のクラスでIKBの5課分をすすめるためには、学習者の授業外個人学習が不可欠であるとしている。

授業では一つ一つの漢字の導入は行わず、語彙としての学習に重点をおく。このため、新出の個々の漢字の読み書きは学習者が予習し、覚えてくることが前提である。また、練習問題も予習が前提であり、授業では、これらの授業外個人学習で得た知識を確かめたり、応用したりする活動を行う。杉浦（2010）は、旧K600の指導において、教室ではクラスメイトとの協働を中心とした活動を行うこと、その際には漢字圏と非漢字圏学習者のペアワークによって、互いの問題点を補うことができると述べている。

## 3．2013年度のK500クラスの概要

### 3.1 クラスの目標と運営方針

前章に述べたIKB、及びこれまでの授業方針と、先に述べた2013年度に予想された課題を考慮し、クラスの目標と運営方針を以下のように設定した。

(1) クラスの目標は、漢字中級レベルの課題である「初級から中級への移行」を達成し、「自律的な漢字語彙学習」が開始できることとする。自律学習のための土台として、「自分の漢字力の弱点を知り、それを克服する方法を工夫する」ことも含む。

(2) 学習者の日本語レベルがこれまでと比べて多少下がることが予想されるが、漢字クラスとしてのレベルは落とさない。ただし、初級から中級への移行に慣れる時期として、1課の速度を緩める。

(3)　5コマ増えた分は、学習者の実際の様子に合わせて練習や活動を増やす。とくに、初級から中級への移行を促す活動（力の弱い学習者の多いケース）と、今後の自律的な語彙学習につながる活動を取り入れる。

### 3．2　受講者

2013年度の新K500クラスの受講者について表2にまとめる。本稿での受講者とは、登録者ではなく、実際にクラスに出席した学習者を指すこととし、聴講生は除く。補講漢字クラスは、学習者の多様なスケジュールに対応するため、同じレベルで同じ内容を扱う2つのクラスが別の曜日に開講されている（K500-1およびK500-2）が、本稿では2クラスをまとめてK500クラスとして扱う。

春学期には、クラス全体の日本語力と漢字力が予想した通り例年より低く感じられた。学期開始時に行う漢字力診断テストにて80％以下の学習者は計14名中6名であった。日本語レベルはJ500以上が9名、J400以下が5名で、J500以上には非漢字圏学習者が多く、J400以下には漢字圏学習者が多かった。出席不良者はJ500の非漢字圏学習者が1名と、J400以下の学習者から出た。

秋学期には、クラス全体の日本語力と漢字力が春学期よりは多少上がったように感じられた。漢字力診断テストにて80％以下の学習者は計22名中5名だった。日本語レベルはJ500以上が15名、J400以下が7名だった。春学期と同様に、J500以上には非漢字圏学習者が多く、J400以下には漢字圏学習者が多かった。出席不良者はJ400以下と、J500の非漢字圏学習者から出た。

表2　2013年度K500受講者（2クラスの合計）

| | 受講者 | 漢字圏学習者 | （うち韓国人学習者） | 非漢字圏学習者 |
|---|---|---|---|---|
| 春学期 | 計14名<br>J600以上：2名<br>J500：7名<br>J400以下：5名<br>＊出席不良：5名 | 6名<br>JJ600以上：1名<br>J500：1名<br>J400以下：4名<br>＊出席不良：3名<br>（J400以下） | （1名）<br>J600以上：1名<br>J500：0名<br>J400以下：0名<br>＊出席不良：なし | 8名<br>J600以上：1名<br>J500：6名<br>J400以下：1名<br>＊出席不良：2名<br>（J500、J400以下） |
| 秋学期 | 計22名<br>J600以上：7名<br>J500：8名<br>J400以下：7名<br>＊出席不良：6名 | 12名<br>J600以上：3名<br>J500：3名<br>J400以下：6名<br>＊出席不良：3名<br>（J400以下） | （4名）<br>J600以上：3名<br>J500：0名<br>J400以下：1名<br>＊出席不良：なし | 10名<br>J600以上：4名<br>J500：5名<br>J400以下：1名<br>＊出席不良：3名<br>（J500、J400以下） |

以上から、漢字圏学習者の場合はJ500以上、非漢字圏学習者の場合はJ600以上であれば、無理なくK500を受講できたと考えられる。非漢字圏学習者の場合は、J500レベルであってもK500の授業に最後までついてこられない可能性があることが示された。漢字圏学習者であってもJ400以下であれば同様であった。

## 4．2013年度春学期のK500クラスの報告

### 4．1　春学期の授業内容

2013年度のK500では、IKB Vol.1をベースに常に「初級からの中級への移行」と「自律的な漢字中級語彙の学習」を促すことを意識した活動を行った。旧K600は1学期10週のため、1課につき1.5週しか充てられなかったが、2013年度以降のK500では1課につき平均2.5週となる。図1にIKB Vol.1を用いた2013年度K500の授業の流れを示す。

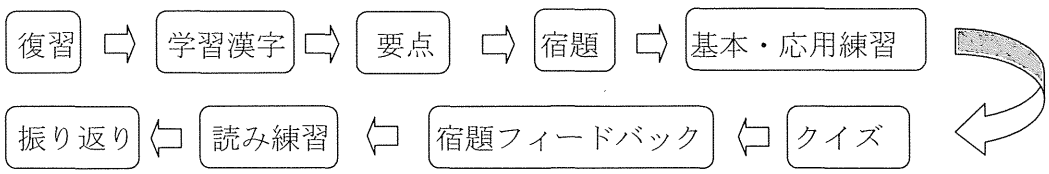



図1　2013年度K500の授業の流れ

上記の流れで、活動は、大きく「導入セクション」、「練習セクション」、「まとめセクション」に分けることができる。具体的な内容をまとめる。

(1)　導入セクション

初級からの中級への橋渡しとして、導入セクション（復習・学習漢字・要点）を授業内でしっかり扱った。ただし、教師からの講義形式ではなく、自主的な予習の確認として取り入れた。

①復習

漢字圏+非漢字圏のペアで答え合わせをしながら話し合い、既習知識の活性化を促した。その後、必要に応じて教師がフィードバックを行った。

②学習漢字

先任者から引き継いだ「学習漢字の課別まとめ（部首ごとの索引になっている学習漢字リストを課ごとに並べ替えたもの）」を配布し、各課の学習漢字の予習を課した。旧K600では時間的制約により、学習漢字は100％自習に任せていたが、先に述べたようにK500では例年よりクラス全体の日本語力と漢字力が低く、特に春学期には「待合室」と「待つ」の「待」という字が同じであることにも気が付かないほど、字形の認識を苦手とする非漢

字圏学習者が数人いた。このため、学期開始前の予定を変更し、クラスの中で学習漢字の自習の手助けになる活動を取り入れることとした。

**【資料１】「学習漢字シート」の内容**

第___課　非漢字圏学習者のための「学習漢字シート」

1．学習漢字の中で、覚えにくかった「字形」について話し合いましょう。どのように覚えれば、記憶に残るかについて話し合ってみましょう。
　例）独り（ひとり）；犭（けもの、beast）＋虫（むし、worm）
　　→「けもの」の「むし」は「ひとり」でさびしい。

2．学習漢字の「音読み」について話し合ってみましょう。とくに、字形などから推測できた場合、推測と異なった場合などに焦点を当てて話し合いましょう。
　例）欧（オウ）；区分（くぶん）の区（ク）から「ク」だと推測したのに、
　　実際の音読みは「オウ」であった。区（ク）が漢字の左側（へん）にあるからだと思う。

第___課　漢字圏学習者のための「学習漢字シート」

1．母国語の漢字音と比較しながら、学習漢字の「音読み」について話し合ってみましょう。とくに、予測や推測と異なった場合、国の人が間違いやすい場合に焦点を当てて話し合いましょう。
　例）題（ti→タイ；×）　；体（ti→タイ）、明（ti→タイ）
　　題（ti→ダイ；●）

2．母国語の漢字語彙と比較しながら、学習漢字の「語彙」について話し合ってみましょう。とくに、母国語の漢字語彙との違いに焦点を当てて話し合いましょう。
　例）日本語（題名、題目）；中国語（題目）

まずは、漢字の字形・読み・語彙についてのストラテジーについて考えさせることを目的とした「学習漢字シート（資料１）」を使い、ペアやグループでの話し合い、クラスでの発表などを行った。最初は慣れない課題に戸惑っていた受講者であっても、クラスメイトとのアイディアの共有を通じて、次第に似通った字の比較、母語の読みや語彙との比較などに気を配るようになる様子がみられた。次に、従来から用いられてきた「学習漢字チェック」のプリントを使い、「字から語彙へ」の学習を意識させた。

③要点

旧K600では予習に任せていたが、旧K600でも補講生は専門で忙しく、予習できないケースも多かった。K500でも予習前提とはしていたが、クラス全体のレベルが下がっていることから、ペア・ワークによる活動の形で授業中に要点を扱うこととした。要点の説明が解説になるような問題「要点シート（資料２）」作り、ペアまたはグループで、課ごとのテーマについて意見を交換したあと、テキストを見て答えを確認し、質問があれば教師が補足説明を行った。

【資料２】「要点シート」の一例

Intermediate Kanji Book vol.1 Lesson 2　　要点 A

① 否定の接頭辞　「不」または「無」を使って反対の言葉をつくりなさい。

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 親切 | ⇔ | ( 不親切 ) | | 有力 | ⇔ | ( | ) |
| 可能 | ⇔ | ( | ) | 有効 | ⇔ | ( 無効 | ) |
| 便利 | ⇔ | ( 不便 | ) | 有能 | ⇔ | ( | ) |
| 安定 | ⇔ | ( | )* | 有料 | ⇔ | ( 無料 | ) |
| 参加 | ⇔ | ( 不参加 | )* | | | | |

(2)　練習セクション

④宿題

宿題は、旧K600と同様に『外国人学習者のための漢字中級語彙用法問題集１』を配布した。これは、該当課の新出の学習語彙を使って語彙を増やす問題、既習語彙を使って単文作成をする問題などが中心となっている。宿題の提出は原則として、導入セクションが終わった翌週とした。また、授業時間に余裕があれば、ペアで正答チェックを行った。

⑤基本・応用練習

杉浦（2010）にも述べられていたように、できるだけ漢字圏と非漢字圏でペアを組ませ、互いに答えを確認したあとで発表させる形式で行った。既習語彙との比較、語彙の拡充に重点をおきながら進めた。課がすすみ、慣れてくるに従って、次第に質問が増えてきた。

(3)　まとめセクション

⑥クイズ

学習者の力を測るというよりは、地道な復習と学習を促す活動として位置づけ、既存のものを活用し、FBはできる限り当日その場で行った。クイズの平均点は最終成績の評価要素に含まれる。

⑦宿題フィードバック

旧K600では、宿題のFBに時間を割くことができなかったが、K500では宿題のFBをしっかりと行った。特に、語彙問題は質問を受ける形式で、作文を中心に取り上げ、文中における語彙の意味や用法、運用力を確認した。

⑧読み練習

杉浦（2010）で紹介されている「ペア読み」だけではなく、プラスαとなる活動を取り入れた。具体的には、清濁・長短などの漢字語彙の発音を意識させるワープロ入力練習や穴埋め式ディクテーション活動である。春学期には「ペア読み」の文章を用いたが、秋学期にはその課の学習漢字の語彙について学習者がインターネットから検索してきた文章や、

宿題の作文を用いたディクテーションを行った。毎回漢字圏１名と非漢字圏１名の担当を決め、ペア読みの文章や宿題の作文を読んでもらい、他の学習者はそれを聞きながらワープロ入力したり、穴埋め式ディクテーションをしたり、読んだ側と聞いた側とが長短・清濁について議論した。

⑨振り返り

これは、漢字の自律学習のスタート段階にあたり、自分自身の漢字学習について意識させることを目的として取り入れたものである。

学期開始時に行うK500のレベルチェックテストは、IKBvol.1冒頭の「漢字力診断テスト」である。テキストでは、テストを自己採点後、漢字の意味・語構成・字形など12の項目についてのグラフを作成し、自分の漢字力を分析できるようになっている。

旧K600では、この「漢字力診断」の詳細については軽く触れる時間しかなかったが、K500では「振り返りシート」を準備し、レベルチェックテストの後に30分程度の時間をとって、漢字力についての自分の弱点とその改善のための具体的な方法について考えさせた（資料３）。

**【資料３】　診断テスト後の振り返りの内容**

あなたの漢字力診断テストのグラフはどんな形でしょうか。グラフを見ながら考えてみましょう。
１．点の高い項目を、高い順に２つ書きだして見ましょう。（ただし、８点以上であること）
２．点の低い項目を、低い順に２つ書きだして見ましょう。（ただし、４点以下であること）
３．あなたの弱点は何だと思いますか。
４．あなたの弱点を克服するために、これからどうしようと思いますか。具体的な方法を話し合ってみましょう。

「振り返りシート」は、このテスト後に考えた自分の漢字学習に関する課題と克服方法について、１課ごとにその成果と理由、およびそれに基づく今後の計画について記録するものである。１課ごとに振り返る内容は、弱点に関する課題のほか、読みの予測と練習、発音などについての授業における活動および授業外自習の成果も含む。

これらは、１課が終わるごとに記入、時間があればペアまたはクラスでの意見交換を行い、必ず教師に提出してフィードバックをうけることとした。

### ４．２　春学期の反省

2013年度春学期末には、授業評価アンケートが実施された。これは、受講者の意見を聞きながらコースカリキュラムの改善を行うために、筑波大学留学習者センターの日本語コースで行っているものである（加納 2014）。2013年度K500のアンケート回収率は67％であった。ここでは、本稿における課題に関する回答のみを抜粋してまとめる。

まず、クラスの授業内容に関する回答であるが、授業内容・方法・成績評価に関する6つの質問項目のうち、

A4. 先生の教え方はよかったですか。

A6. あなたの日本語をよくするために、授業は役に立ちましたか。

の2つに関して、他のレベルの漢字クラスに比べ、K500の評価はやや低かった。K500の回答では、「A4.先生の教え方はよかったですか」について「とてもよかった」が約50%にとどまった。また、「A6.授業は役に立ちましたか」については、「とても役に立った」が30%弱にとどまっている一方、「あまり役に立たなかった」という回答も約10%あった。

次に、クラスのレベルや教材、満足度に関する3つの質問項目の中で、

B2. 教科書や教材は、学びたいことが学べましたか。

についてもまた、例年のように漢字の8つのレベルの中でK500が最も評価が低く、「とてもそうである」「だいたいそうである」を合わせて60%程度にとどまった。

これらのアンケートの結果は、秋学期開始後に公表されたものである。しかし、春学期中に筆者らが感じた手ごたえは、このアンケート結果と矛盾しない。初級から中級へ切り替わるK500についての評価が低いのは、例年見られる傾向ではある（加納 2014）が、今年度の春学期にもその傾向は改善されなかったということを示す。例年と大きく異なった受講者の特徴を教師側が素早く把握し対応することができなかったのも原因の一つであろう。また、クラス外での自律学習を促すために漢字学習のメタ認知ストラテジーの活動を積極的に取り入れたが、認知ストラテジーの活動を重視する学習者にその活動の意義を十分に伝えることができなったこともある。筆者らがコース終了時にまとめた反省は、以下の通りであった。

①新しいテキストと授業の方法に慣れるまでに予想よりも時間がかかった。

②学習漢字シート、振り返りシートは、教師にとっても新しい試みだったが、学習者も要領を理解するまでに時間がかかった。学習漢字シートについては、徐々に慣れてきたが、振り返りシートは時間を多く割いたにも関わらず、FBまでの十分な手当てまではできず、理解を得られないまま終わってしまったようである。

## 5．2013年度秋学期のK500クラスの報告

### 5．1　秋学期の授業内容

前節の反省から、秋学期の授業内容については、スケジュールおよび活動に以下の変更を加えた。

(1)　スケジュール上の変更

①レベルチェックテストを授業時間外にする

より多くの授業時間を確保するために、学期開始時のレベルチェックテストを、紙ベー

スの漢字力診断テストからウェブ上のTTBJ（筑波日本語テスト集）に変更した。学習者にはURLを伝え、自宅で受験して結果を２週目の授業に持参することとした。そうすることで、１・２週遅れてきた学生へのケアに授業時間を削ることがなくなるだけではなく、１週目の空き時間をテキスト１課の「復習」と「要点」の漢字グルーピングにあてることができるため、新しいテキストへの慣れが早まると期待できる。

②１課あたりの授業時間に傾斜をつける

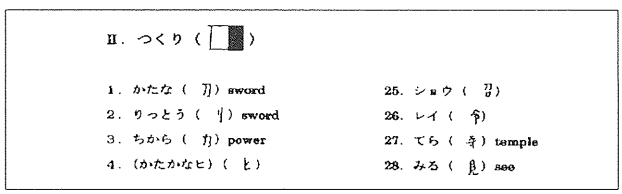
１課には、学習漢字シート・振り返りシートなどの副教材の説明と理解に必要な時間を考慮し、初回を含む４回の授業時間を充てた。２課に３回、３課以降は２回ずつと、学習者が慣れるに従ってペースを上げるようにスケジュールを組み直した。最後の復習課は、授業では要点のみを扱うこととした。

(2)　活動上の変更

③学習漢字

春学期の授業において、学習漢字シートについては、とくに非漢字圏学習者のなかには何をどうすればよいのかわからない様子もみられた。それを踏まえ、秋学期には「部首・部品リスト（資料４）」を作成・配布し、字形学習のヒントにするように指導した。その影響か、秋学期には非漢字圏からも独自の良いアイディアが出てきた（資料５）。

【資料４】「部首・部品リスト」の一例


II. つくり（ ）

1. かたな（ 刀）sword
2. りっとう（ 刂）sword
3. ちから（ 力）power
4. （かたかなヒ）（ 匕）
25. シュウ（ 羽）
26. レイ（ 令）
27. てら（ 寺）temple
28. みる（ 見）see

【資料５】 漢字学習シートの回答例（非漢字圏学習者）

・敗（やぶれる）→ 貝（共のお金 money）＋攵（のぶん → whip）
→ お金がないと苦難な道を歩め、敗れる。

・拡（カク）→ 扌（手へん、hand）＋広（ひろい）→ large）
→ 手で広げることは拡大すること。

④振り返りシート

春学期では各課の最後に振り返りシートの記入と確認を行ったが、先に述べたように、時間が十分に確保しきれず、未消化のまま終わってしまった。そこで、秋学期は課ごとの振り返りは省略し、レベルチェックテストの後に弱点についての考察と学習計画を立て、コース終了時にそれについて振り返るという２回のみの実施とした。

**【資料６】 コース終了時の振り返りシートの例**

これから、知らない漢字を覚える時、学習漢字シートの練習のように、にている漢字をさがし、音読みと訓読みがより覚えやすくなる方策についてよく考えると思う。この授業のおかげで漢字の理解についての考え方が本当変化したので、これからもそのように漢字の勉強を続けたいと思う。

## 5．2　秋学期の反省

秋学期末には、留学生センター全体での授業評価アンケートは実施されないため、K500コース独自の授業評価アンケートを実施した。アンケートは５段階評価式と自由記述式の二部からなるものを作成した。K500-1、K500-2の受講者22名のうち、途中脱落者４名を除く18名からの回答を得た。

(1)　５段階評価式回答（5：とてもそうである、1：全然そうでない）

**【資料７】 秋学期の終了時アンケートの質問（５段階評価式）**

1．今学期を通して、あなたの弱点を知り、それを克服する練習ができましたか。
2．今学期を通して、あなたの弱点が改善できたと思いますか。
3．今学期を通して、日本語の読みの予測・推測の練習ができたと思いますか。
4．今学期を通して、聞き取りやすく発音する練習ができたと思いますか。
5．次の授業活動は、あなたが「今後」、「漢字クラス以外でも」漢字・漢字語彙を学んでいくために役に立つと思いますか。
① 学習漢字シート（漢字圏・非漢字圏）
② 読み練習（ペア読み+ワープロ入力練習／穴埋め式ディクテーション）
③ 振り返りシート（各課を終えて）
④ 作文宿題

次の図２に示したように、「1．あなたの弱点を知り、克服する練習ができたか」の回答の平均は4.1、「2．弱点が改善できたか」の回答の平均は4.0であり、どちらについても「とてもそう思う」「そう思う」があわせて80％をこえた。「漢字学習の弱点を知りそれを克服する方法を工夫する」というコース目標に関しては、クラス全体がある程度の達成感を得ることができたといえるだろう。「3．読みの予測・推測の練習ができたか」の平均は4.0、「4．聞き取り易く発音する練習ができたか」の平均は3.9であったが、こちらは「まあまあそう思う」という回答も３割近く見られたことに注意が必要である。

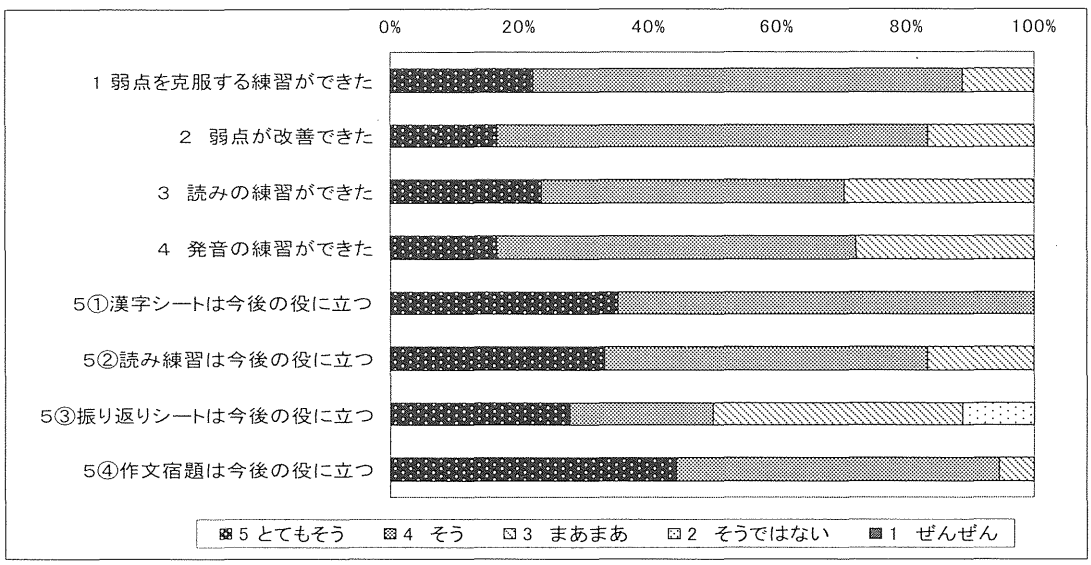



図２　秋学期のアンケート結果

「自律学習の支援」を目的とした授業内活動についての評価をはかるため、より詳細に質問項目を設定した「5．次の授業活動は、あなたが今後漢字を学んでいくために役に立つと思うか」についての回答は、平均が高い順に、④作文宿題（平均4.4）、①学習漢字シート（平均4.3）、②読み練習（平均4.2）、③振り返りシート（平均3.7）であった。評価の低かった振り返りシートについては、「弱点の確認ができる」「予習の材料になる」等のコメントの一方で、「目的がわからない」「自分の書いたことを忘れてしまう」等のコメントも見られた。春学期に引き続き、活動の目的の理解にばらつきがあったこと、また教師が効果的なFBを行いきれなかったことが考えられる。

(2) 自由記述式回答

**【資料９】 秋学期の終了時アンケートの質問（自由記述式）**

| |
|---|
| 5．次の授業活動は、あなたが「今後」、「漢字クラス以外でも」漢字・漢字語彙を学んでいくために役に立つと思いますか。<br>（①～④の各項目につき、「どうして？」という理由記述欄を設けた。）<br>6．K500の授業や授業活動についてコメント・指摘・評価・提案などがあれば、自由に書いてください。 |

（2－1） 授業活動に関するコメント

①学習漢字シート（平均4.3）

非漢字圏学習者からは、「この方法ははじめてなので、時々役に立った」「色々な漢字がもっと覚えやすくなった」というコメントがあった。一部の学習者については、自律学習のためのストラテジーの紹介として、有意義だったといえる。漢字圏学習者からは、「違う発音と意味を比べたあとで、単語の意味は普段から注意した」「中国語と日本語の間違いやすいところを区別できる」というコメントがあった。中級以降、漢語が増加するなかで、必要な気付きであろう。

②読み練習（平均4.2）

ペア読みは、補講漢字クラスの伝統的な活動であり、学習者にも人気が高い。「自分が正しいと思った発音がほかの人にはそうじゃないことをわかった」「実際に漢字を使うから」「友達と一緒に読み方をチェックすることができるのでたのしい」などのコメントの他、ワープロ入力練習については「入力すると発音がきれいにできる」「入力しても単語が出ないから、発音を正しく覚えたつもりでも、実はそうじゃなかったとよく分かった」との評価もみられた。

③振り返りシート（平均3.7）

「自分の練習のために必要なことだった」「先生にチェックしてもらえるし、自分の不足もわかるのでいい」等の一方で、「そんなに役に立たなかった」というコメントもみられた。

④作文宿題（平均4.4）

「言葉の正しい使い方を覚えやすかった」「書き方の練習もできた」「使い方を確かめるためにいい」「自分の間違いを見て理解ができる」等、大変ではあるが役に立つと認識していることがわかる。宿題は、導入セクションの終了後、練習セクションの予習的活動として取り入れているが、「授業後（各課が終わってから）の提出にすれば間違いはもっと少なくてすむ」というコメントもあり、予習としては負担がやや重いこともうかがえる。

（2－2）　K500全体についてのコメント

①クラス目標に関するコメント

「漢字語彙や発音や文脈の中で漢字の使われ方に関する色々な練習ができた」「とくに中国の漢字と意味が違う漢字、同じ言葉でも意味が全然違う、その区別をよく覚えて間違えないように使う」「自分に足りないことがだんだんよくなった。とてもやりがいがあると思う」「小論文を書く時、文章の言葉は昔よりもっと豊富になった」「新しい漢字を勉強するストラテジーを学んだ」等、語彙の拡充および自律学習支援というクラスのねらいを理解し、一定の成果を得たコメントがみられた。また、「習った漢字を入れて日常生活で話す、書くことが重要だと思う」という、自律学習を行おうとする姿勢がみられるものもあった。「学習と宿題がたくさんあるので、たくさん書けてよく見たので覚えてきた」というコメントからは、授業内で漢字を「使う」ことによる成果がみられるが、やはりいかに授業外で「使う」ようにしていけるかが大切だと考えられる。

②スケジュールに関するコメント

「後半のスピードが早く感じる」「授業はいいがスピードがちょっと早い」というコメントがみられた。２学期制の導入にあたり、15週という時間をかけても、やはり一部の学習者には重く感じられる内容なのであろう。もしくは、移行のために前半のスケジュールに余裕をもたせた分、相対的に後半が早く感じたとも考えられる。

③クラスへの要望

「勉強を始めるとき各課のテーマを説明してほしい」「訓読み、日常生活に使われる漢字の動詞形を学ぶコースなどがあったらいい」「漢字が使われている例文が少なく、覚えにくい」という具体的な要望がみられた。テーマの説明については、すぐに対応が可能であるが、漢字の動詞形、例文などは、テキストに頼らず、教室外でどのように自ら学んでいけばよいかという視点で、今後の指導の課題といえるだろう。

## ６．まとめと今後の課題

2013年度K500の目標であった「初級から中級への移行」および「自律的漢字語彙学習の開始」については、スケジュールの調整や授業内活動の工夫により、一定の成果が得られた。しかし、春学期の授業評価アンケートにみられるように、漢字中級学習の開始にあたる課題はまだまだ克服されたとはいえず、今後もクラス運営の改善に関する試みの継続が必要である。

今年度の新たに試みた活動の中で、「学習漢字シート」「読み練習（入力練習、穴埋めディクテーション）」は、春学期の反省を踏まえ改善を行った結果、秋学期のアンケートにおいては、学習者からの好評を得ることができた。今後改善を継続していけば、従来から行われている「作文宿題」「読み練習（ペア読み）」並みの好評が得られる可能性もある。一

方、授業スピードが早いというコメントを考慮すると、活動の回数やタイミング、FBの方法などを、今後も実施しながら精査していくことが必要であろう。また、クラス外での学習を促すような活動の取り入れや活動の紹介を行う際には、学期開始後の学習者の様子にあわせて柔軟に対応することも重要であろう。

## 参考文献

加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子・阿久津智（1993）『Intermediate Kanji Book, Vol.1』凡人社

加納千恵子（1994）「漢字中級教材の開発―『漢字1000PLUS』の指導法―」『小出記念日本語教育研究会論文集』3：65-72

加納千恵子（2013）「留学習者センター日本語補講コースにおける授業評価 - 2012年度1学期の授業評価アンケート報告 - 」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』28：365-392

加納千恵子（2014）「留学習者センター日本語コースにおける授業評価 - 2013年度春学期の授業評価アンケート報告 - 」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』29：245-282

杉浦千里（2010）「『Intermediate Kanji Book』を用いた漢字中級クラスのヒント」『日本語教師のための実践・漢字指導』くろしお出版：114-128

森田良行（1986）「初－中級移行過程における語彙教育」『講座日本語教育22』早稲田大学語学教育研究所：98-108